

先輩たちの体験談を聞いてみましょう！



クバン・セルゲイさん
東京日本語教育センター



ウズベキスタン

私はアニメに加え、小さいときから日本料理、折り紙等の日本文化、日本の技術に関心があり、日本語を独学していました。高校1年の夏休み、1人で東京、千葉、京都を3週間旅行し、高校2年時にロシアのAFSに申込み、浦和高校に1年間留学しました。これらの豊かな経験を経て、ますます日本の不思議な魅力のとりこになり、もっと日本で勉強したいと決意し今に至っています。タシケントの日本センターで偶然、安倍総理夫人に会ったこと、浦和高校で有名な心臓外科医の天野先生のすばらしい講演を聞いたことも一生の思い出です。将来は、大学卒業後も日本に残り、国際交流、国際貢献の仕事がしたいです。もちろんウズベキスタンと日本の交流促進がライフワークです。



マチルダ・グスタフソンさん
デジタルハリウッド大学



スウェーデン

思い出す限り、私は日本の文化や食べ物、歴史そして日本人のことにいつも興味を持って、日本について学ぶことに多くの時間を費やしてきました。都合の良いことに、私の故郷であるレクサンド市は北海道にある当別町と姉妹都市の提携を結んでいます。どんなに日本についての本を読んでも、日本に行ったこともなく、日本語を話すこともできなかったため、東京の日本語学校への入学を決意しました。初めはたった1年だけの計画でしたが、日本を大好きになり、その1年が2年になってしまいました。日本語学校卒業後、デザイナーになるという夢は日本で叶えたほうがよいということに気が付き、大学への入学を決意しました。もちろん、いつも光り輝く虹色の世界ばかりではありませんが、後悔はしていません。実際に夢が現実になっています。自分の努力を信じて、将来何か素晴らしいことをここ日本でやり遂げたいと思います。



ウラジミール・マリノフさん
北海道大学



ブルガリア

私は小さな頃から日本のことが気になっていました。テレビゲームを通じて数人の日本人と知り合い、日本の良い点や悪い点、多くのことを聞きました。日本人が日本についてあまりにも多くの良い点を挙げることに驚き、実際に自分自身で見て、経験したくなりました。私は物理が大好きなので、日本留学の機会を得たときに、物理の研究を続けることにしました。日本に到着した際には、自分がこの地では完全なる外国人であることに不安を感じました。「ここで受入れてもらえなかったらどうしよう」と。しかし、驚いたことに、友人が言っていた以上に日本人は思いやりがあり、寛容であることがわかりました。誰もが私が外国人であることをまったく問題にしていなかった。不安が消え去り、この素晴らしい国に魅了されてしまいました。日本で得た知識を将来に役立て、受けた親切に報いたいと思います。



サンジャヤ・アルビンさん
上智大学 理工学研究科



インドネシア

私が高校に入学した時に、日本はアジアの国で初めて工業化を成し遂げた国だと学びました。安全で平和な発展した国であることを維持し続けている現在の日本のイメージから、日本で学ぶことは自己実現を達成するための最善の方法であると信じていました。日本人の多くの変化に対する比較的寛容（ある面においては頑固で保守的かもしれませんが）な能力は過度に強調されることはありませんが、手厚い奨学金の提供だけではない、日本のその寛容性は世界の注目を集めることに有益に働いています。さらに、日本は最近アジアで初めて人口の減少を経験しているようです。そのような母国で経験したことと大変異なっている人口動態は日出ずる国についてもっと学びたいという私の興味を駆り立ててきました。（途上国における人口過剰に懸念を抱いているので、文化におけるどのような要素が人口増加を抑制するか気になっています。）